

秋田県の教育資産を活かした海外交流事業(BCC訪問)

今年度から始まった秋田県教育委員会主催の事業である。タイのバンコク市内にある名門校3校（バンコク・クリスチャン・カレッジ：BCC、ワタナ・ウィッタナ・アカデミー：WWA、ワチュラウッド王立学校）を訪問し、教員・生徒間の交流を実施した。参加校は本県のSSHに関連する4校（本校、秋田北鷹高校、秋田中央高校、横手清陵高校）で、本校からは理数科の生物班4名が参加した。

<日程>

- 1月 8日(日) バンコクへ(学校→秋田空港→羽田空港→バンコク)
- 1月 9日(月) バンコク着 発表練習
- 1月10日(火) バンコク・クリスチャン・カレッジ(BCC)での研究発表、交流 ホームステイ
- 1月11日(水) ワタナ・ウィッタナ・アカデミー(WWA)、ワチュラウッド王立学校との交流、寺院の見学
- 1月12日(木) ワット・ラオ等の寺院・王宮の見学 夜の便で日本へ
- 1月13日(金) 帰秋(羽田空港→秋田空港→学校)

<生徒感想>

- ・英語を流暢に話す生徒が多い。また日本語を学習している生徒もあり、意識の高さを感じた。
- ・英語で伝えられないもどかしさを痛感した。受験に必要な英語と会話に必要な英語の違いを感じた。そのどちらの力も伸ばせるように努力していきたい。
- ・親日的で親切な人が多く、また日本に対して興味を持っている学生が多かった。
- ・見学した寺院の規模の大きさに驚いた。歴史的な背景などについても知ることができた。
- ・タイの良さはもちろん、自分の国の良さを実感する機会にもなった。



BCCでは理数ゼミの研究の成果を英語で発表した。事前練習の甲斐あって自信を持って発表することができ、研究内容をBCCの生徒にもしっかりと伝えることができた。また当日はBCC生徒宅にホームステイし、生徒間での深い交流ができた。BCC以外の2校でも温かい歓迎を受けた。タイの生徒の学びの様子・意識の高さ・語学力など、日本との違いに生徒は大きな刺激を受けたようであった。研究成果を英語で伝えあう中で、「英語を学ぶ」ことはもちろん、「英語で

学ぶ」という手段としての英語の重要性に生徒は気づいたようであった。

本事業は来年度も継続実施予定である。来年度理数科に進級予定の生徒には、本事業への参加を目標に研究に励んでもらいたい。それだけ価値のある貴重な機会である。

県外研究施設訪問(つくば)

1月5日(木)～1月6日(金)にかけて「研究施設訪問(東京×つくば)」が行われ、1年生28名が「東京大学素粒子物理国際研究センター」、「日本未来科学館」、「国立研究開発法人防災科学技術研究所」、「宇宙航空研究開発機構(JAXA)」を見学しました。

今回の訪問は、その訪問先が素粒子物理学、ロボット工学、防災科学技術、宇宙工学など多岐に渡っていましたが、各研修内において、それぞれの分野の持つ多様性に触れたことにより、それらの関連性や、様々な視点から物事を捉えることの重要性を理解する事ができたのではないのでしょうか。また、5日の夜に宿泊先で行われた研修会では、NPO法人日本トイレ研究所研究員でJICA青年海外協力隊OBの平澤恵介さんを講師にお招きし、青年海外協力隊の体験談や国際ボランティア・災害時ボランティア等についてご講話いただきました。生徒達は初めての話に大変興味深く聞き入り、最先端の科学技術を社会貢献に役立てるといったようなことも、活躍の場を国内のみならず、世界にまで広げて考えるなど視野が広がったように思われます。

【生徒感想】

《東京大学素粒子物理国際研究センター》

物理学の分野では極小の世界から途方もない宇宙まで広くまだ解明されていないことがあり、最高の技術を集約して研究を行っていることに感銘を受けた。／大学に入って終わりではなく、そこから上を目指すならどの教科もしっかりやっておかなければいけないというお話を聞いたので、それを忘れないようにしたい。



《日本未来科学館》



失敗から学ぶこともあるし、また新たな疑問に出会えるかもしれないということがわかったので、疑問に思ったことを素直に調べていきたいと思った。／新しい科学技術を生み出すには、今までの技術を組み合わせてみたり、失敗しながらひらめいたり、植物などはたらきをみまらったり、発想をきりかえたりして、頭を柔軟に使って一つの概念にとらわれないことが大切だとわかった。

《研修会》

「将来どんな仕事に就くか、その仕事を通じて社会貢献できるか、生きがいを見つけられるか」という姿勢で、自分の進路に向き合っていきたいと思った。／自分が思っていること、疑問に思うこと、興味があるものは何か、など、自分自身と向き合って将来どうするかを決めていきたい。／まずは現状をよく知り、それを受け止め、自分に何ができるのかを考えるのが大



切だと思った。いろいろ試して自分に合う仕事を見つきたい。

《国立研究開発法人防災科学技術研究所》



理論だけではなく実物大の施設で実験できることに魅力を感じた。／さまざまな条件のもとで実験を行うことで、日本の災害に対応しているのだと改めて知ることができた。／災害から身を守るためには、まず災害を観察し、災害を知る必要がある。それが、実際の災害予測にもつながると思う。／このような研究があるからこそ、新しい防災システムが生み出され、私たちの暮らしが護られていることがわかった。

《JAXA》

宇宙へ行くためにはとてもたくさんの人の苦勞が伴い、各国間での連携も求められるため、協調性が大切だということがわかった。／宇宙飛行士を支えるための技術や地上の人たちの努力もあって宇宙で活躍できるということが実感できた。宇宙についての仕事をしてみたいと思った。／筑波宇宙センターは、日本の中での宇宙技術の最高峰というだけではなく、世界中と連携して重要な役割を担っているのだとわかった。



姉妹校 PCSHS Buriram 校舎前で



Sirindhorn Science Home 訪問

私たち一行は、バンコクに到着した瞬間から PCSHS Buriram 校の先生方の手厚いおもてなしや親切な気遣いに触れ、驚きと感動を覚えた。この「おもてなし」と「気遣い」はタイに滞在中ずっと続いた。決して特別な行為ではなく、タイの人達の国民性だろうという印象を持った。

最初に訪問したのが Nipro Thailand Corporation Limited で、広い工場内を鹿角市出身の方の案内で見学した。ちなみにタイの社長さんは、比内出身の方でした。翌日1月10日には Sirindhorn Science Home を訪問し、その日のうちに姉妹校のある Buriram 州まで学校所有の School van で移動した。11日の姉妹校訪問では、全校生徒(中・高校生)及び教職員の方々より熱烈的な歓迎を受けた。歓迎式典後は、姉妹校と本校生徒と一緒に大学の若手研究者の講義を聴講した。その後、Buriram 校と本校生徒の英語による研究成果発表を行った。本校生徒の口頭発表及びポスター発表はとても堂々としており、英語による質疑応答も難くこなしていた。昼食を挟んで Buriram 校の化学の授業に参加したり、タイ語、タイの踊り、タイ料理の実習等を通して Buriram 校の生徒たちと交流した。放課後はグラウンドでバレーボールやバスケットボールをして更に交流を深めた。翌12日は Suranaree University of Technology を訪問し、大学教授の指導の下 Gel Electrophoresis experiment を行った。最終日13日は Buriram Sugar Public Company Limited を見学した。

今回の訪問を通して、タイ文化に存分に触れ、姉妹校の先生方や生徒達の優しさにも触れることができ、大変貴重な経験をさせてもらった。Buriram 校の校長先生をはじめ、職員の方々、生徒の皆さんには大変感謝している。また、姉妹校の生徒の英語運用能力の高さや旺盛な好奇心、向学心を目の当たりにして、本校生徒諸君は大いに刺激を受けたと思われる。次に紹介する本校生徒の感想の抜粋が、今回の成果を物語っている。

【生徒感想】

タイ姉妹校での英語による発表は、準備してきたことを存分に発揮できたので良かった。聞いてくれた生徒達の様子をみても言いたいことは伝わっていると感じ、英語でコミュニケーションをとれることの喜びを感じた。日本とは違う文化を自分の目と肌でしっかり感じてきた。色々と考えさせられる場面もあって大変貴重な経験をさせて頂いた。本当に勉強になった。/現地の日本人教職員の方から、「青年海外協力隊として異国で働く」という新たな生き方を教えてもらった。外国で働くことは考えたことがなかったが、教職員として働けることやタイの国民性を知り、タイで働くのも悪くないと思った。将来、青年海外協力隊に応募してみようとも思えた。/タイの高校生は何にでも積極的に英語の他にも日本語を話している生徒もいて驚いた。私も物事に興味を持ってがんばらなければいけないということに気づかされた。/行く先々で水が用意されていて、不思議に思った。食べ物も日本より味が濃く、甘いものはものすごく甘かった。これも日本人とタイ人の味蕾の違いだと感じた。/ほとんどが英語での会話で自分の英語力の低さが改めてわかった。

タイ国姉妹校プリンセスチュラポーンブリラム校訪問

新年明けて早々の1月8日(日)から、教員3名、2年生10名で姉妹校 Princess Chulabhorn Science High School Buriram(PCSHS Buriram)校を訪問した。タイ王国も今は冬であるが、気温は30℃を超えていて、真冬から真夏へと一気に季節をまたいだ訪問になった。PCSHS Buriram 校の先生方は空港で私たちを出迎えるために、前日からバンコクに泊まっていたとのこと。ていねいな歓迎を受けながら、次の日程・内容で研修や交流を行った。

1月8日(日) 出発

1月9日(月) バンコク着、Nipro Thailand Corporation Limited 訪問

1月10日(火) Sirindhorn Science Home 訪問

1月11日(水) PCSHS Buriram 訪問

歓迎式、Special lecture 聴講

Students' research presentations

Students' research poster presentations

Science laboratory (Chemistry) by PCSHS Buriram teacher

Cultural exchange (Food/Dance/Language)

1月12日(木) Suranaree University of Technology 訪問

“Gel Electrophoresis experiment”参加

1月13日(金) Buriram Sugar Public Company Limited 訪問

1月14日(土) 帰国

